

平成25年度 太平洋いwash類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
 中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成26年4月～7月)のポイント

海況

潮岬以東の黒潮は、概ねC型で推移する。

沿岸水温は概ね、潮岬以西が「平年並」～「高め」、
 熊野灘～伊豆諸島北部海域が「平年並」～「低め」、
 鹿島灘～常磐南部海域が「平年並」～「低め」で
 推移する。

※ C型：非大蛇行離岸流路

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、

高め＝平年値+1.5℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

漁況(来遊量予測)

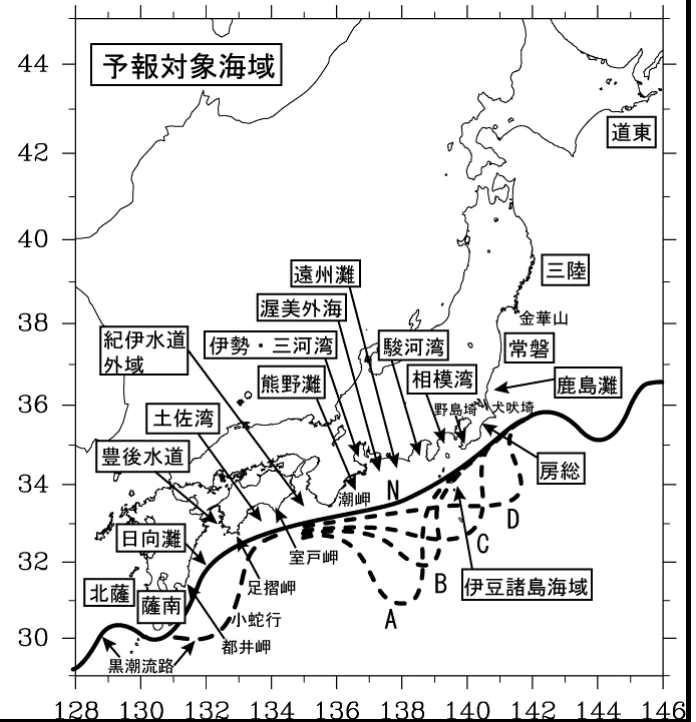
マイワシ

西日本では前年を下回る海域が多い。

東日本は概ね前年並。

カタクチイワシ

前年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

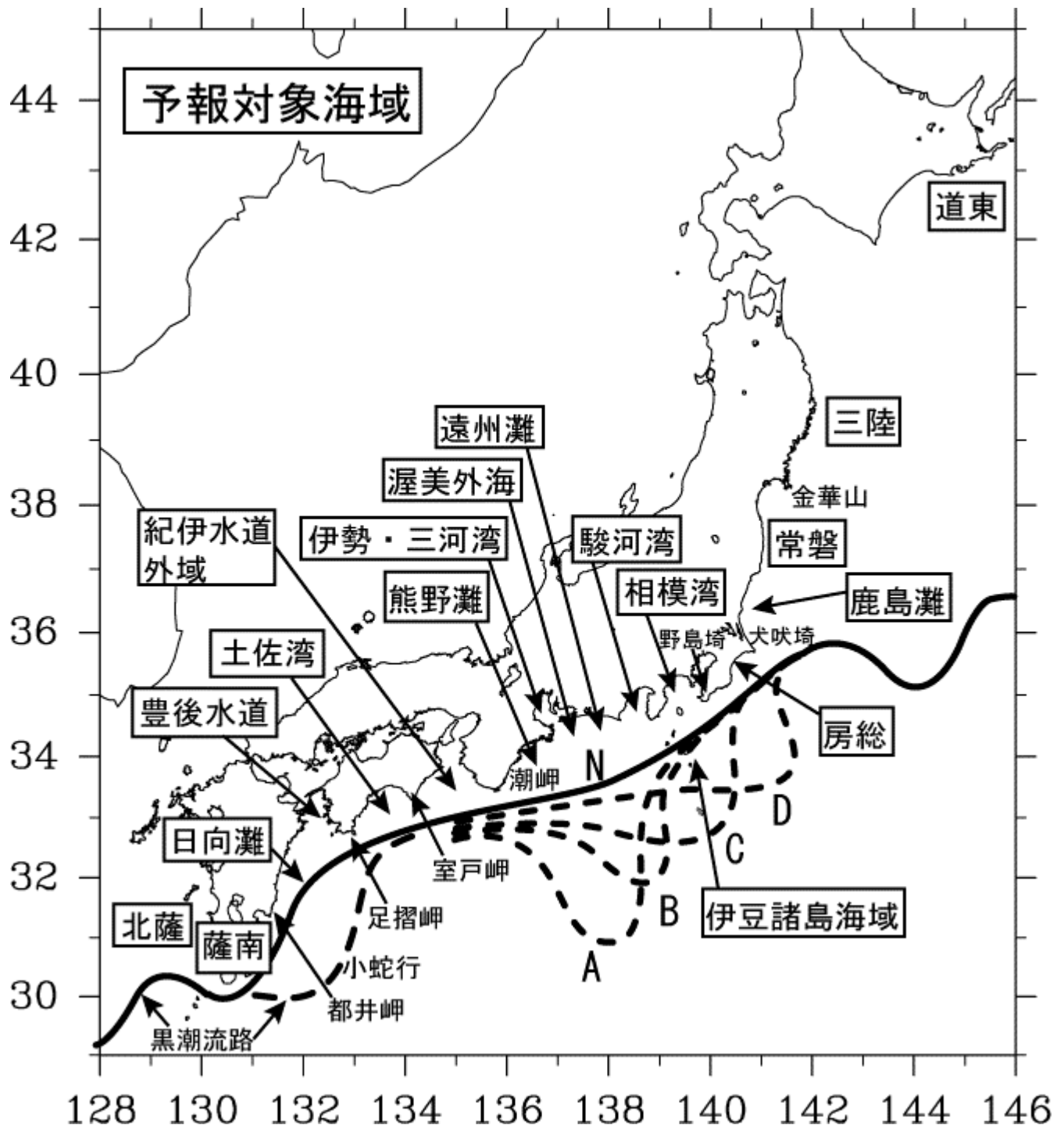
担当：市橋、川崎

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>



中央ブロック海況予報

今後の見通し（2014年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、接岸傾向で推移する。小蛇行の形成により、6月に一時的に離岸する。
- ・足摺岬沖では、接岸傾向であるが、7月に小蛇行の東進により一時的に離岸する。
- ・室戸岬～潮岬沖では、離岸傾向であるが、7月に小蛇行の東進の前後で一時的に接岸する。

◎潮岬以東

- ・概ねC型で推移する。
- ・房総沖では、離接岸を繰り返す。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って一時的に暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、概ね冷水域に覆われる。黒潮流路の変動に伴い、内側域への暖水波及がある。
- ・伊豆諸島南部海域は、概ね冷水域に覆われる。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・冷水の影響が強まる。黒潮流路の変動に伴い、一時的に暖水が波及することがある。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は「平年並」～「高め」で推移する。小蛇行の東進に伴い変動する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、「低め」で推移する。
- ・房総沿岸域は、「平年並」～「やや高め」で推移する。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過（2013年12月～2014年3月） （注：経過は図2を参照のこと）

(1) 黒潮

- ・C型で経過した。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・12月、黒潮北縁の月平均位置は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。
- ・1月、黒潮北縁の月平均位置は離岸傾向で推移した。
- ・2月、黒潮北縁の月平均位置は接岸傾向で推移した。

◎潮岬以西

- ・12月下旬、都井岬沖に小蛇行が形成され、黒潮は「かなり離岸」となった。
- ・1月～3月上旬、都井岬沖の小蛇行が東進し、足摺岬沖～室戸岬沖を通過した。
- ・2月上旬と3月上旬に、潮岬沖を小蛇行が通過した。
- ・2月下旬、都井岬～足摺岬沖で黒潮は「接岸」となった。

◎潮岬以東

- ・1月～3月、熊野灘～相模湾では、概ね冷水域に入っていた。
- ・1月下旬～2月上旬、黒潮から熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域に暖水が波及した。
- ・2月下旬～3月上旬、黒潮から熊野灘～遠州灘に暖水が波及した。
- ・1月～3月上旬、伊豆諸島南部海域は概ね冷水域に覆われた。
- ・房総沖での黒潮は、離接岸を繰り返した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・1月上旬、沿岸域の表層を中心に暖水が波及した。北部沖合には冷水が南下した。
- ・2月中旬、沿岸域を中心に冷水が南下した。
- ・2月下旬、暖水が広く波及した。

現況 (2014年3月14日現在)

(1) 黒潮

- ・遠州灘沖で蛇行した後、八丈島付近を流れている。
- ・伊豆諸島東側で再び蛇行して、房総沖を離岸して流れている。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎潮岬以西

- ・黒潮は、都井岬～足摺岬で「接岸」、室戸岬～潮岬で「やや離岸」している。

◎潮岬以東

- ・熊野灘～遠州灘に暖水が波及している。
- ・野島埼沖で黒潮は離岸している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・暖水波及の影響が広く残っている。しかし、ごく沿岸域では冷水南下の影響がある。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

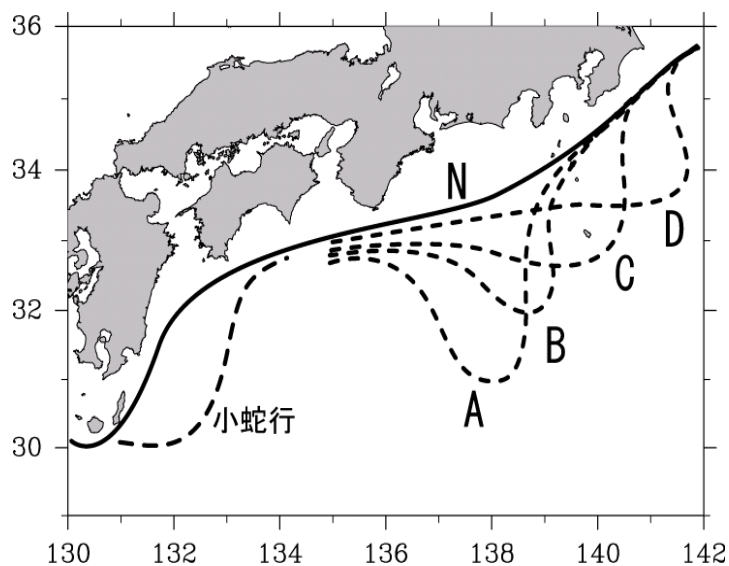


図1 黒潮流型の分類

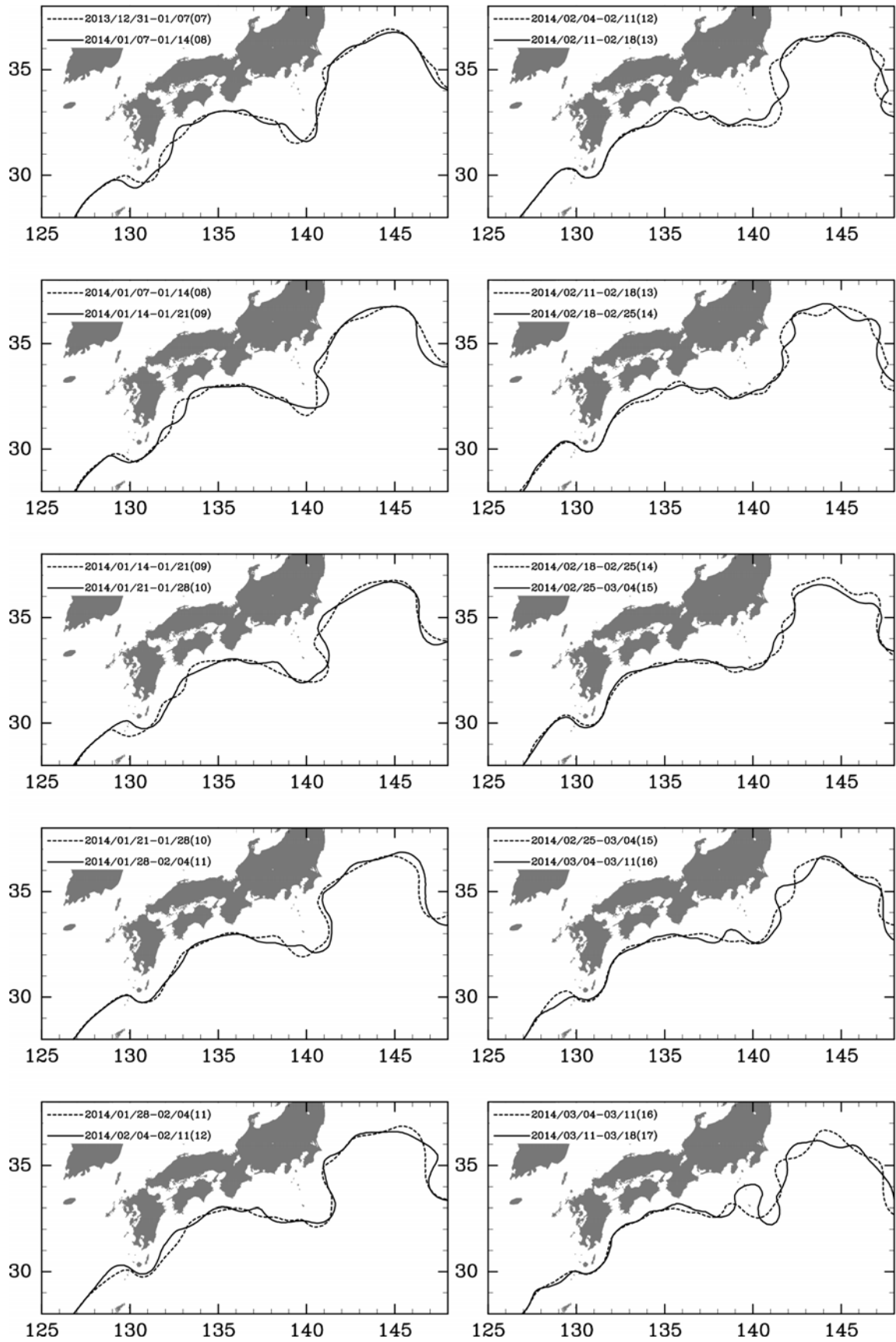


図2 黒潮流軸のパターン

(2014年1月~3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2014（平成26）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2014（平成26）年級群）、1歳魚（2013（平成25）年級群）、
2歳魚（2012（平成24）年級群）、3歳魚（2011（平成23）年級群）、
4歳魚（2010（平成22）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 渥美外海～駿河湾のマシラス（船曳網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期：渥美外海では4月～6月。遠州灘～駿河湾では3月下旬～5月。

2. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南、紀伊水道外域中心では前年並。日向灘、豊後水道、紀伊水道外域東部～熊野灘では下回る。宿毛湾、土佐湾では上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：期の前半は14cm～20cmの1歳魚を主体に20cm～21cmの2歳魚が混じる。期の後半には6cm～14cmの0歳魚が主体となる。

3. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では前年並。駿河湾および相模湾北部では前年並～上回る。相模湾南部では上回る。

(2) 漁期・漁場：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では0歳魚と1歳魚が対象となる。駿河湾、相模湾では15cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～20cmの2歳魚が混じる。相模湾北部では期の後半に14cm未満の0歳魚も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：房総～常磐南部海域では期を通じて、仙台湾～三陸海域では5月以降にまき網漁場が形成される。道東海域ではまき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸海域の定置網においては5月以降漁獲がある。

(3) 魚体：1、2歳魚を主体に3歳以上が混じる。1歳魚は14cm～18cm、2歳魚は18cm～21cm、3歳以上は21cm～23cm。

漁況の経過（2013年12月～2014年2月）および見通し（2014年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万～90万トン台で推移した後、再び減少傾向となった。2002年以降は20万トン未満で推移していたが、近年は増加傾向がみられる。

2010年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から近年では極めて高い水準であることが示唆された。漁業においても、2010年秋以降の三陸・道東海域に出現した後、2011年漁期前半には房総海域におけるまき網で多獲され、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は5.36と最近10年間で最大となり、漁獲の主体として2011年漁期の好漁を支えた。2012年漁期の愛知県以東海域における2010年級群（2歳魚）の漁獲尾数（5.1億尾）は同漁期同海域における全漁獲尾数（12億尾）の4割を占め、2013年漁期前半における房総周辺のみき網漁獲物においても全体の1割を占めた。夏秋季の道東海域におけるまき網においても、2011年（約2千トン）および2012年（約6千トン）には2010年級群主体に、また2013年（約18千トン）は2011年級群とともに漁獲の大半を占めた。以上のように2010年級群は近年では非常に高水準の年級群であり、今期も4歳魚として漁獲対象にはなるものの、残存資源量は少ないと考えられる。

2011年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの近年では比較的高水準の年級群であることが示唆された。2011年漁期の春～秋にかけて、東京湾以西の海域における0歳魚の漁獲は前年を大きく上回り、また同年10月以降の八戸の2そうまきでまとまって漁獲されるなど、太平洋沿岸域の広い範囲で加入・漁獲がみられ、2012年漁期前半には熊野灘でも1歳魚として漁獲の主体となった。未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は0.65と2010年級群の1割強に留まったが、その後2010年級群とともに2012年漁期の常磐・房総海域におけるまき網漁獲物の主体となった。2013年漁期においても、房総周辺のまき網では漁期前半における漁獲尾数の3割を占め、三陸南部のまき網と定置網では漁獲の主体となり、道東海域のまき網では2010年級群とともに漁獲の主体となるなど、今期も主たる漁獲対象になると考えられる。

2012年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの2011年級群を上回る水準の年級群であることが示唆された。漁業では、相模湾以西の沿岸各地で0歳魚の漁獲（マシラスを含む）が前年を下回ったものの、2012年11月下旬以降の常磐・房総海域における0歳魚の漁獲は前年を上回り、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は2.22と2010年級群に次ぐ2番目の高さを示した。2013年漁期前半においても、熊野灘～房総周辺にかけての多くの海域で漁獲の主体となり、漁期後半には三陸南部の定置網や八戸沖のまき網に出現した。今期も特に東日本海域では2011年級群、2013年級群とともに主たる漁獲対象になると考えられる。

2013年級群は、産卵量段階では（2012年10月～2013年6月、I～IV区）244兆粒と2012年（192兆粒）ならびに2011年（120兆粒）を上回った。2013年6月の移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく加入量指数は139.1で、2010年級群の391.4には至らないものの2012年級群の123.2を上回り、1996年の調査開始以降3番目に高い値を示したが、その直後に実施された北西太平洋サンマ資源調査（東北水研）による移行域～親潮域における2013年級群（0歳魚）の推定分布量は7.7億尾で、2009年以前の結果を上回るものの2010年～2012年の分布量を下回る結果となった。その後、2013年9月～10月にかけて千島列島東方沖合にて実施した秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）の結果からは、2013年春の調査結果に基づき予測した高い豊度には至らないものの、特に低いわけではないと考えられた。漁業においては、マシラス漁業では土佐湾、渥美外海および常磐海域では前年を上回る漁獲があったものの、他の海域では前年を下回った。未成魚については、2013年漁期における房総海域のまき網や三陸沿岸定置での漁獲はそれほど多くなかった。しかし、その後の未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は2月末現在の暫定値で2.65と、2012年級群（2.22）を上回り、2012年級群と共に近年では高豊度の年級群であると考えられる。

2014年級群の、前期の太平洋沿岸におけるマシラスとしての出現状況であるが、いずれの海域においても低調で推移したことから、分布量は前年を下回ると考えられる。沖合における分布については、今後の調査船調査の結果を待って判断することとなる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マシラス

2013年12月から2014年3月にかけて、相模湾以西の太平洋沿岸各海域においてシラス漁あるいは試験操業がおこなわれた。いずれの海域においてもマシラスの漁獲量は前年同期を下回るか、もしくは低調であった前年と同様の漁況で経過した。また、今期は潮岬以東における黒潮の流路がC型基調で推移すると予測されているが、C型は渥美外海におけるマシラスの沿岸への来遊には不適である。以上の結果からマシラスの分布量は少なく、前年を下回ると予測される。

2) 未成魚・成魚

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

来遊量：今期前半の主たる漁獲対象は1歳魚であり、宿毛湾、土佐湾ならびに熊野灘ではこれに2歳魚（熊野灘では3歳魚も）が加わる。期の後半には0歳魚主体の漁獲へと移行する。北薩海域および薩南海域では、2013年5月以降現在に至るまで、2013年級群を主体に前年を上回る漁獲が継続していることから、今期の来遊量は好調であった前年並と予測される。日向灘における今期1歳魚の来遊量は前年下半期の宿毛湾や熊野灘における0歳魚の漁況と関係がみられるが（上半期まき網漁獲量予測値）、前期の宿毛湾における漁況が前年を上回ったのに対して、熊野灘では大きく下回った。その一方で、日向灘では1月に1歳魚以上の成魚を主体とした好漁がみられており、

今期も前年並の来遊があると予測される。今期後半に来遊する0歳魚については、1月のマシラス推定漁獲量が前年同期を下回ったことから、今期は前年を下回ると予測される。これら0歳魚、1歳魚の来遊予測を総合すると、今期の日向灘における来遊量は前年並と予測される。豊後水道南部における前期の漁況は低調に推移した。今期についても前年を下回る来遊に留まると予測される。宿毛湾および土佐湾では、前期のマシラス漁況が前年を下回った一方で、宿毛湾の中型まき網で体長18-19cmの成魚主体に前年を大きく上回る漁獲がみられたことから、今期の来遊量は全体として前年を上回ると予測される。紀伊水道外域中心における前期の漁獲量は極めて低調に推移した。今期については近年の資源動向等も鑑み、全体として低調であった前年並～上回ると予測される。紀伊水道外域東部では、前期2月にまき網によるまとまった漁獲がみられており、これに併せて2013年冬季の和歌山県周辺海域における卵稚仔の分布量が高かったこと、さらにマイワシ太平洋系群の資源動向等を考慮し、比較的好漁であった前年を下回ると予測される。熊野灘における前期の中型まき網漁獲量は前年を大きく下回った。また、今期の漁獲の主体となる沖合加入群1歳魚は、2月に入って来遊がみられたものの、その量は前年を大きく下回っており、今期の来遊は期待できない。このことから、今期の熊野灘における来遊量は好調であった前期を下回ると予測される。なお漁期後半に来遊する0歳魚については、現段階では予想が困難である。

漁期：期を通じて漁獲される。

魚体：体長14cm～20cmの1歳魚が期の前半における漁獲の主体となり、体長20cm～21cmの2歳魚が混じる。熊野灘では体長20cm～22cmの3歳魚以上の個体も混ざる。期の後半に漁獲される0歳魚は体長6cm～14cm。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

来遊量：今期の伊勢・三河湾、渥美外海で漁獲の主体となるのは0歳魚で、これに1歳魚が混じる。今期は、各地で好漁であった2011年級群、2012年級群が親魚となり、高豊度の0歳魚を発生させることが期待される。一方で、今期の潮岬以東における黒潮流路はC型基調で推移することが予測されているが、これはマシラスや小型未成魚の沿岸への来遊には適さない。これらのことから、来遊量は低水準であった前年並と予測される。駿河湾、相模湾での今期の漁獲主体は1歳魚で、2歳魚がこれに混じる。相模湾北部では期の後半に0歳魚が加わる。2013年漁期は、駿河湾、相模湾ともにまき網による漁獲量が前年を大きく下回った一方で、伊豆東岸から相模湾北部にかけての定置網では1歳魚主体で前年を上回る漁獲がみられた。これら漁況経過に加え、今期の漁獲主体となる2012、2013両年級群が共に高豊度の年級群であること、また神奈川県が前期に実施したシラス禁漁期調査においてマシラスが殆ど漁獲されず、今期の相模湾北部に来遊する0歳魚は少ないと予測されたことを併せて検討すると、駿河湾ならびに相模湾北部における来遊量は前年並～上回り、相模湾南部における来遊量は前年を上回ると予測される。

漁期・漁場：伊勢・三河湾、渥美外海ならびに相模湾北部では期を通じて漁獲される。駿河湾、相模湾南部では期を通じて散発的に漁獲される。

魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では0歳魚および1歳魚。駿河湾、相模湾では15cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～20cmの2歳魚が加わる。相模湾北部では期の後半に14cm未満の0歳魚も漁獲される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

来遊量：今期漁獲物の主体となるのは1歳魚と2歳魚で、これに3歳以上が加わる。1歳魚は、2013年漁期における出現状況はそれほど多くなかったが、その後の未成魚越冬群資源量指数は2月現在での暫定値で2.65と近年では2010年級群に次ぐ高い値を示した。2012年級群の同指数2.22ともほぼ同水準であることから、今期の1歳魚としての来遊は、前年の1歳魚（2012年級群）と同程度と予測される。2歳魚は、予測される資源豊度は2011年級群を上回っており、また2013年漁期のまき網漁業ならびに三陸定置網においてまとまって漁獲されていることから、今期も前年を上回る来遊があると予測される。3歳魚は、2013年漁期の房総周辺海域において2012年級群とともにまとまって漁獲され、同年夏以降は道東沖のまき網において2010年級群とともに漁獲の主体となったことから、今期も残存資源の来遊が期待されるが、卓越年級群であった前年3歳魚の来遊量は下回ると予測される。4歳魚は卓越年級群であったが、残存資源はあまり多くないと予測される。以上を総合すると、前年並の来遊量と予測される。

漁期・漁場：まき網漁場は、房総海域～常磐南部海域に、4月～5月にかけては断続的に、その後6月にはまとまって形成される。仙台湾～三陸海域では5月以降に漁場が形成される。道東海域では今期はまき網漁場は形成されない。常磐北部海域は、現在まき網の操業自粛措置がとられている。仙台湾～三陸海域の定置網においては、5月以降漁獲がある。

魚体：1歳魚と2歳魚が漁獲の主体となり、3歳魚が加わる。魚体は、1歳魚については4月～5月は14cm～16cm、6月～7月には15cm～18cm。2歳魚は18cm～21cm、3歳以上は21cm～23cmとなる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2014（平成26）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2014（平成26）年級群）、1歳魚（2013（平成25）年級群）、
および2歳魚（2012（平成24）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～豊後水道では予測が困難。土佐湾では前年並。渥美外海～駿河湾では前年を下回る。相模湾では前年並か下回る。鹿島灘～常磐南部では前年を下回る。

(2) 漁期：全期間。

2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南および豊後水道南部西側では前年を下回る。日向灘では前年並～上回る。豊後水道南部東側～土佐湾では前年を上回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：10cm～14cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に8cm以下（0歳魚）も漁獲される。

3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では前年を下回る。伊勢・三河湾～渥美外海では前年並。駿河湾では前年並～下回る。相模湾では前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：10cm～14cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に8cm以下（0歳魚）も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。三陸北部、道東の定置網ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期・漁場：常磐・房総海域は6月まで。三陸の定置網は5月以降。

(3) 魚体：8cm～13cmの1歳魚主体。12cm～14cmの2歳魚は少ない。

漁況の経過（2013年12月～2014年2月）および見通し（2014年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万トン～150万トンで推移し、2012（平成23）年の資源量は55万トンと推定された。資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2012年級群（2歳魚）は、2013年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において10cm以上の魚体で漁獲されており、現存量、有漁点CPUEはいずれも低水準であった。2013年8月～10月の道東海域では、まき網による漁獲がなく、2000年以来13年ぶりに漁場が形成されなかった。秋季の道東海域流し網調査（釧路水試）において、CPUEは1994年以降で最低となり低水準であった。また、前年11月～本年6月の常磐・房総海域での12cm未満（1歳魚主体）の漁獲量は12千トンで、前年（47千トン）、前々年（24千トン）を下回った。これらの動向から、2012年級群は低水準であり、今後もほとんど

漁獲対象とならないと考えられる。

2013年級群（1歳魚）は、春季のシラス漁況において総じて前年を上回り、海域によっては引き続き秋季に未成魚として好漁となった。夏秋季以降のシラス漁況は、北薩～紀伊水道外域で前年並であったものの、伊勢湾～常磐海域では前年を下回った。0歳魚を主たる対象とする夏秋季の房総沿岸2そうまきは前年を下回り、秋季の道東流し網調査（釧路水試）において、0歳魚は見られなかった。沖合域では、2013年の北西太平洋サンマ資源調査（東北水研、6月～7月）および同年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）における10cm未満の推定現存尾数および有漁点CPUEが、2001年以降最低であった。以上の状況から、2013年級群のうち沖合発生群は低水準と考えられるため、資源量としては低水準と言えるが、沿岸発生群が前年並の海域もあると予測される。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

西薩～豊後水道では、2月までの漁況では成魚の来遊は多いものの、今後大型成魚（2歳魚主体）の来遊は少ないと予想されるため、シラスの漁場形成の予測が困難である。土佐湾では、成魚の動向や近年のシラス漁況経過等から、来遊量は前年並と予測される。渥美外海では、今期の黒潮流路が当該海域へのシラスの来遊に適さないC型で推移すると予測されることから、来遊量は前年を下回ると考えられる。遠州灘～駿河湾では、カタクチイワシ太平洋系群全体の親魚量と3月～6月のシラス漁獲量との関係等から、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。相模湾では、房総以北での大型成魚の漁獲量から、前年並と予測される。鹿島灘～常磐南部では、2月～5月における海況がシラスの生息・来遊にとって不利な「低め基調」の水温で推移すると予測されているため、前年を下回ると考えられる。

(2) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

北薩～薩南海域では、1月～2月の来遊水準は高かったものの、前年5月以降の西薩海域のシラス漁が12月以外は低調であったことから、非常に好調であった前年を下回ると予測される。日向灘～土佐湾の大型成魚（2歳魚主体）については、熊野灘における前年12月～本年2月の漁獲量が前年を下回り、12cm～14cmの常磐房総海域からの南下群の来遊が少なかったとみられることから、前年を下回ると考えられる。日向灘では、大型成魚の来遊量は少ないものの、前年のシラスおよび小型まき網の漁況が好調で推移したことから、今期後半に出現する地先由来の1歳魚（10cm～11cm主体）が主体となり、今期の来遊量は前年並か上回ると予測される。豊後水道南部西側では、本年1月～2月の漁況が2013年級群（1歳魚）を主体に好調であったものの、前年同期の漁況が非常に好調であったため、来遊量は前年を下回ると予測される。豊後水道南部東側では、予測期間における大型成魚の来遊の見込みは少ないものの、本海域および周辺海域の前年12月～本年2月の2地先由来の1歳魚の漁況が好調であったことから、来遊量は前年を上回ると予測される。宿毛湾～土佐湾では、大型成魚の来遊が漁獲に結びつくかの判断が困難だが、2月までの漁況が好調であったことから、来遊量は前年を上回ると予測される。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとまった漁獲は無い。

(3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘では、道東や常磐・房総海域から南下回遊する群が冬春季の漁獲の主体となる。前年12月～本年2月の漁獲量は前年を下回り、常磐房総海域からの2013年級群（1歳魚）の来遊は少なく、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。伊勢・三河湾～渥美外海では、4月以降に2013年級群（1歳魚）および2014年級群（0歳魚）が主な漁獲対象となる。2014年級群の来遊水準は高くないと見込まれるものの、同海域における前年秋季のシラスが好漁であったことから、今期の来遊量は前年並と予測される。駿河湾では、北部太平洋大中型まき網における資源量指数等の推移から、前年並か下回ると予測される。相模湾では、漁獲の主体となる2013年級群（1歳魚）および2012年級群（2歳魚）の沖合発生群の資源量が少ないことから、比較的好漁であった前年を下回ると予測される。

(4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

常磐・房総海域における前年12月～本年2月の漁獲量は13千トンで、前年同期の23千トンを下回った。漁獲物の構成は、12cm以上（2012年級群主体）が9千トンで前年同期の約1/2、12cm未満（2013年級群主体）が4千トンで前年同期の2/3であった。例年、3月以降は1歳魚が主体の漁況となるところ、今期の1歳魚である2013年級群は過去最低水準で、2月までの漁獲量も少ないため、来遊量は前年を下回ると予測される。漁場および体長については近年の傾向および最近の漁獲物の体長から判断した。

三陸南部～仙台湾の定置網では例年5月から水揚げがあるが、常磐・房総海域の予測および各年級群の資源状態から、来遊水準は前年を下回ると予測される。

三陸北部、道東の定置網では、予測期間中の来遊は前年同様、ほとんど無いと考えられる。

参 画 機 関

| | |
|--|---|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場 | 和歌山県水産試験場 |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課 |
| 岩手県水産技術センター | 高知県水産試験場 |
| 宮城県水産技術総合センター | 愛媛県農林水産研究所 水産研究センター |
| 福島県水産試験場 | 大分県農林水産研究指導センター 水産研究部 |
| 茨城県水産試験場 | 宮崎県水産試験場 |
| 千葉県水産総合研究センター | 鹿児島県水産技術開発センター |
| 東京都島しょ農林水産総合センター | 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター |
| 神奈川県水産技術センター | 香川県水産試験場 |
| 静岡県水産技術研究所 | 一般社団法人 漁業情報サービスセンター |
| 愛知県水産試験場 漁業生産研究所 | (取りまとめ機関) |
| 三重県水産研究所 | 独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 |